
プロジェクト 金融資産の減損に関する会計基準の開発

項目 第 169 回金融商品専門委員会で聞かれた意見

本資料の目的

1. 本資料は、金融資産の減損に関する会計基準の開発について、第169回金融商品専門委員会（2021年9月7日開催）において、聞かれた意見をまとめたものである。

聞かれた意見

ECLモデル（IFRS基準）とCECLモデル（米国会計基準）の基本的な考え方

2. IFRS基準のECLモデルと米国会計基準のCECLモデルには一長一短があるということが確認できた。日本基準は、引当年数についてはECLモデルに近いように思われるが、ECLモデルとCECLモデルの差異は様々な要素により生じるものであり、どちらのモデルが良いということは難しいのではないかと。
3. FASBが開催したCECLモデルに関する円卓会議での議論について教えて欲しい。
4. 会計基準の開発にあたっては、時価会計の下でクレジット・スプレッドが大きくなった場合の取扱いとの整合性にも留意して欲しい。また、クレジット・スプレッドを考慮した実効金利による割引現在価値法を金融機関に求めるのは実務的ではないが、一般事業会社に対しては考慮することが考えられるのではないかと。
5. ECLモデルとCECLモデルの考え方の違いに基づきどちらが良いのかを判断することは難しいのではないかとと思われる。なお、現在の金融機関のリスク管理との整合性の観点からは、CECLモデルの期末時点の回収可能性を評価する絶対的アプローチが馴染みやすいのではないかとと思われる。
6. ECLモデルとCECLモデルの計算技術的な比較を行う前にコンセプトの比較を行ったのは有意義であったと思う。理論的にどちらのモデルが優れているのかを考えるのはあまり意味のないものと考えている。
7. 日本の実務は米国会計基準に近いように思われるが、日本基準における引当水準は、ECLモデルに近いのではないかと。これについてどちらのモデルを是とするのかは難しい。ただし、両モデルのつぎはぎが機能するのかについては疑問がある。

ECLモデル（IFRS基準）とCECLモデル（米国会計基準）の当初適用による影響

8. IFRS第9号適用前の予測よりも引当水準の増加幅は小さかったため、実務が慣れてきたことにより落ち着きがあったと考えられる。詳細な定めを設けるより、ある程度実務に任せることにより、安定することを示唆しているのではないか。
9. ECLモデル及びCECLモデルの導入時にはクレジットカード債権やリテール商品の影響が大きかったと聞いているので、それらに対する影響について検討する必要があると考える。
10. コロナ禍の中である2020年度の欧米主要行の四半期ごとの純損益計算書の推移なども今後示していただけると、引当対応の実務がある程度推測できるのではないか。
11. CECLモデルの当初適用による影響について、クレジットカード会社に対する影響が大きくなっている要因について教えて欲しい。

以 上